沼　島　の　植　物

清　水　美　重　子

オノコロ島伝説で名高い沼島は，兵庫県の最南端に浮ぶ小さな島である。淡路島とは，目と鼻の先にありながら，その間を中央構造線が通るため，本県では唯一の外帯に属し，奇岩怪岩が目をみはる。なかでも男神，女神を形どった上立神，下立神が，炸裂する荒波を受けて，なおかつ凛然とそびえ立っている姿に，自然の厳しさを垣間見る思いがした。

この島には，なだらかな砂浜というものがほとんどなく，切り立った断崖絶壁がそのまま海に落ち込んでいる。島は南と北に大きなふくらみをもち，中央部は低い谷間となっていて，ちょうどヒョウタンを横から見たような形をしている。この北西から南東に走る島の中央の横断道の途中に，小，中学校があり，少し行くとサクラ並木が続いていて，花の季節の美しさがしのばれる。このあたりは木々がよく茂っていて昼なおうす暗い。それらの木々は，クロマツやヤマモモ，カクレミノ，モチノキ，クスノキ，ヤブニッケイ，タブノキなどの常緑高木で，イヌビワ，ホソバイヌビワ，クサギ，ヤツデ，ヒメユズリハ，マルバグミ，マルバシャリンバイなどの中，低木がその間を埋めている。そして，それらの樹下には，シマカンギク，ヤブマオ，キジカクシ，ツルニガクサなどの草本類が生え，ハスノハカズラやアマチャヅルがからみついている。ハスノハカズラは，県内では淡路の灘の海岸とここだけに見られる珍しいつる性植物である。また，至る所に繁茂しているアマチャヅルは，不思議なことにここが日本中で最も多いという。この雑草はこれほど茂るのに，栽培が非常にむずかしい。葉に甘味を含むところから，最近の漢方薬ブームでにわかに脚光を浴び，ここ沼島にもあちこちの薬学の徒が，研究に押しかけているという。

この道の南東の端は断崖になっていて，白くくだける荒波が，上立神を洗っているのが臨まれる。このあたりはクロマツの林で，樹下の低木に混じって，キキョウランが散見される。この草は，四国，九州の海岸近くに生える常緑多年生のユリ科植物で，兵庫県下ではこの島だけに生える珍品で，花の色がキキョウ色をしているところからこの名があるが，ルリ色をした丸い実も花以上に美しい。

松林から続くくの字に曲った急坂を波打ち際へと降りる道には，ハマナタマメやハチジョウススキ，ダンチクが生い茂り，暖帯の海岸そのものの風景である。なかでもハマナタマメは，淡路本島ではあまり見られないものであるが，この海岸ではすごい勢いで生育し，舞い落ちたピンクの美しい花が，殺風景なコンクリートの道を彩っていた。

ハ　ゼ　ラ　ン

海岸に降りても砂浜はない。けれども岩の割れ目のひとにぎりの砂にも，ツルナやハマアカザ，ワダンなどが生活の場を見つけて，厳しい環境との戦いをくりかえしている。

島の表玄関，沼島港を見おろす沼島八幡宮は，スダジイの老木やタブノキ，カクレミノ，オオシマザクラなどの木々に包み込まれて深閑としていたが，せわしなく降り注ぐ蟬時雨だけが，暑さをいっそうかきたてていた。うす暗い樹下には，イズセンリョウ，マンリョウ，ツルコウジ，ジュズネノキ，オオムラサキシキブなどの暖地性の低木が生え，ヤマアイやヤブミョウガが小さな群落

をつくり，フウトウカズラ，テイカカズラ，サネカズラなどのつる植物が，樹幹や岩肌を覆い隠している。フウトウカズラは，県下では淡路の灘の海岸とここだけにしか生えていないコショウ科の珍しい植物である。昔はコショウとまちがえられていたこともあったが，これにはコショウのような辛味はない。

社殿の周囲の石だたみの間には，ヒルガオ科のアオイゴケがびっしりと生え，美しいグランドカバーとしての役割りを果している。

港をとり囲むように建ち並ぶ民家の石垣は，きれいな石や変った石の，ちょっとした展示場でもある。そんな石垣の割れ目には，オニヤブソテツやハスノハカズラ，ハゼランなどが生えている。ハゼランは，熱帯アメリカ原産のスベリヒユ科の植物で，60cmあまりにも伸び，細かく分岐した円錐花序に，ピンクの花と赤い実をたくさんつけ，本当にかわいらしい，明治初年に渡来した古い園芸植物であるにもかかわらず，その栽培はいたってまれであるが，ここ沼島では民家の庭先を抜け出して，野生化しているのも興味深い。

大水の浦から古水の浦，上立神に向けて，島の南の方を山道伝いに一周する。登り口あたりには，リュウキュウヤブラン，タマシダ，ホシダ，コバノイシカグマ，ダンチク，メダケなどが密生している。なかでもタマシダは，地下に貯蔵茎をもつ変わったシダで，ここが分布上の北限となっている。

山の稜線に入ると，クロマツ，ヤマモモ，カクレミノ，モチノキ，クスノキ，ヤブニッケイ，イヌビワ，オオバヤシャブシ，ヒメヤシャブシ，コナラ，オオシマザクラ，ヤマザクラなどの巨木が視界をさえぎっている。小さな島だと思っていたのに，一歩山へ入ると見渡す限り山また山である。シャシャンボやナツハゼ，ヒサカキなどが低木層を支配し，その下をコシダやウラジロ，ハチジョウススキが埋めつくしている。

古水の浦へ続く坂道は，急峻な下りとなっている。シャシャンボやヒサカキ，カンコノキ，マルバシャリンバイ，ハマヒサカキなどの低木が密生し，林床にはコシダが多い。

この島で1番大きい砂浜をもつ古水の浦には，海浜特有の植物，ハマポッス，ハマナデシコ，ハマゴウ，ワダン，ハマボウフウ，ボタンボウフウ，ハマウド，ハマユウ，オカヒジキ，ハマヘクソカズラ，ハマエノコロ，コウボウシバ，ツルナ，オニユリなどが見られる。ハマゴウの群落に混じって，ハマユウが数株，白い清楚な花をつけていた。県下でのハマユウの自生地はここだけである。また，ボタンボウフウは，江戸時代，官許をもらって強壮薬の人参（ニンジン）の代用としたところから〝御赦免人参〟とも呼ばれ，浜の北の方にわずかではあるが生えている。

古水の浦から上立神に向けての山道には，西国巡礼のミニチュアであろうか，小さな祠にたたみこまれた石の仏があちこちに鎮座し，深閑とした木立の中で静かに眠っている。それらのまわりには，クチナシやマルバグミ，マルバシャリンバイ，ミソナオシ，イズセンリョウ，マンリョウ，ヒサカキ，ゴンズイ，コウヤボウキなどの低木が生え，キキョウランやキクバヒヨドリ，サジガンクビ，ツワブキなどの草に混じって，センニンソウ，ボタンヅル，サカキカズラ，オオイタビカズラなどのつる植物がからまっている。サカキカズラも，県下では淡路島と沼島だけに生えるキョウチクトウ科のつる植物で，熱帯から暖帯にかけて分布する珍しい植物である。

キキョウランをはじめ，フウトウカズラ，サカキカズラ，ハスノハカズラ，ハマナタマメ，ジュズネノキ，ハゼランなど，沼島は小さな島でありながら，地形や地質が特異なばかりではなく，植物の分布，生態の上からも興味深いところである。

（昭和55年度夏期研修会　昭和55年8月11～12日）